７３．菊池川水運（きくちがわすいうん）

選定箇所：寺田～大浜（玉名市）

概要：菊池川では、古くから船による往来が活発で、人や物資の輸送の大動脈として利用されてきた。中世には流域一帯を支配下に置いた菊池氏が河口に近い高瀬や伊倉を大陸や朝鮮半島との貿易拠点とし、江戸時代には年貢米や物資を運搬するために流域全体で船着場の整備が進められた。歴史の道百選に選定されているのは、玉名市の寺田－大浜で、流域の米を集積した高瀬御蔵跡、集積した米を大阪へ出荷した高瀬船着場や晒船着場が良好な状態で残されている。